

ゲノム医療はどこまで許されるのか —トランスサイエンスと「社会システム」の視点— 療

NPO健康医療開発機構

第6回シンポジウム

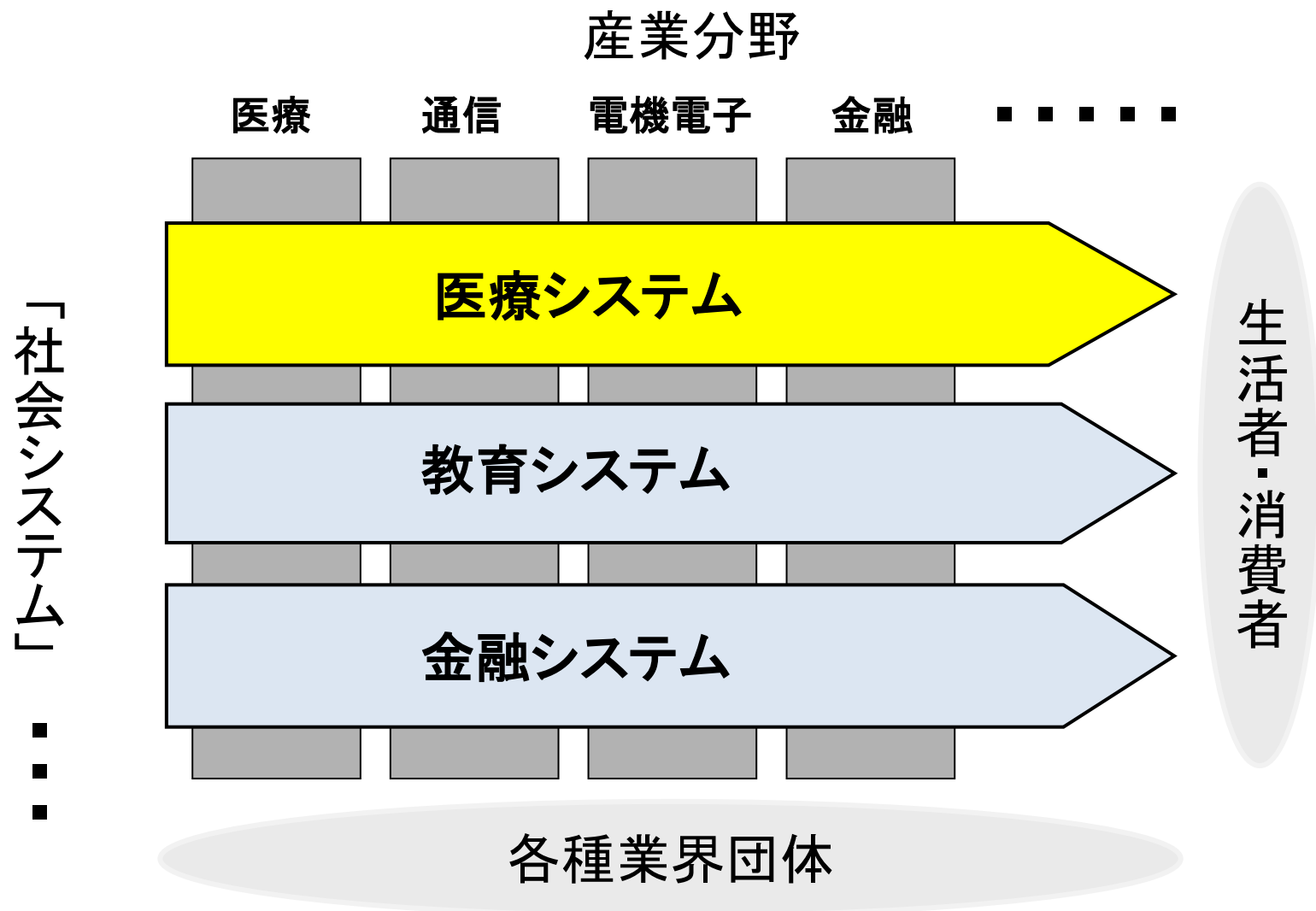
2013年3月3日

横山禎徳

三つの視点

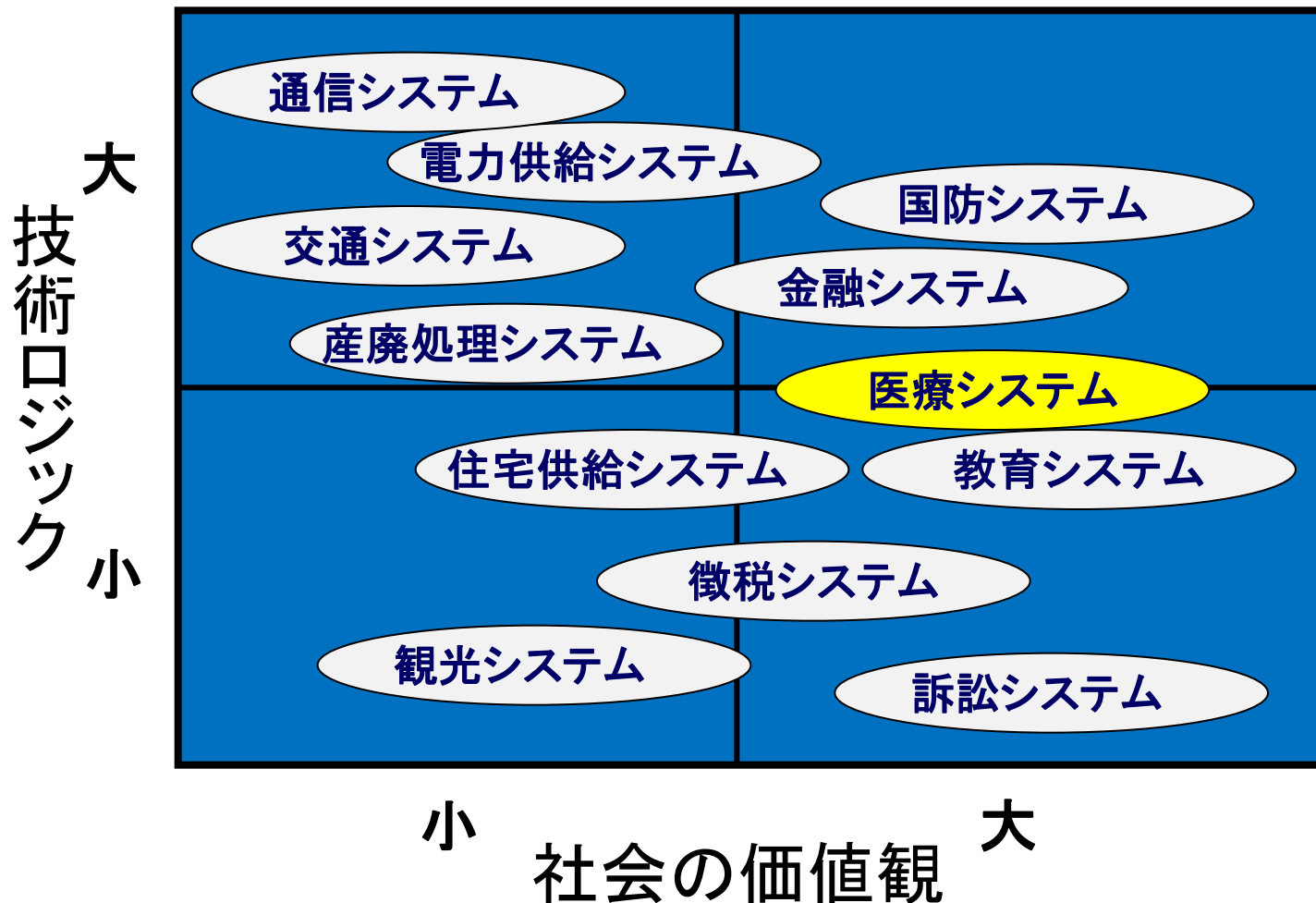
- 「技術 ⇨ 科学」から「科学 ⇨ 技術へ」への転換期
 - 技術は経験的、科学は認知的で、これまで技術が先行
 - 20世紀は科学先行の時代で経験則による安心感の喪失
- 「トランスサイエンス」における素人の役割と責任
 - 「科学が問いを発するが科学だけでは答えられない」領域
 - 「優秀だが無能にもなりうる」専門家への歯止めの責任
- 「社会システム・デザイン」による解の方向を提示
 - 既存分野横通しの循環型やり取りによる解の発想
 - 消費者・生活者が自己責任で主体的に行動するシステム

「社会システム」の定義は既存の産業を横串した 「生活者・消費者への価値提供の仕組み」

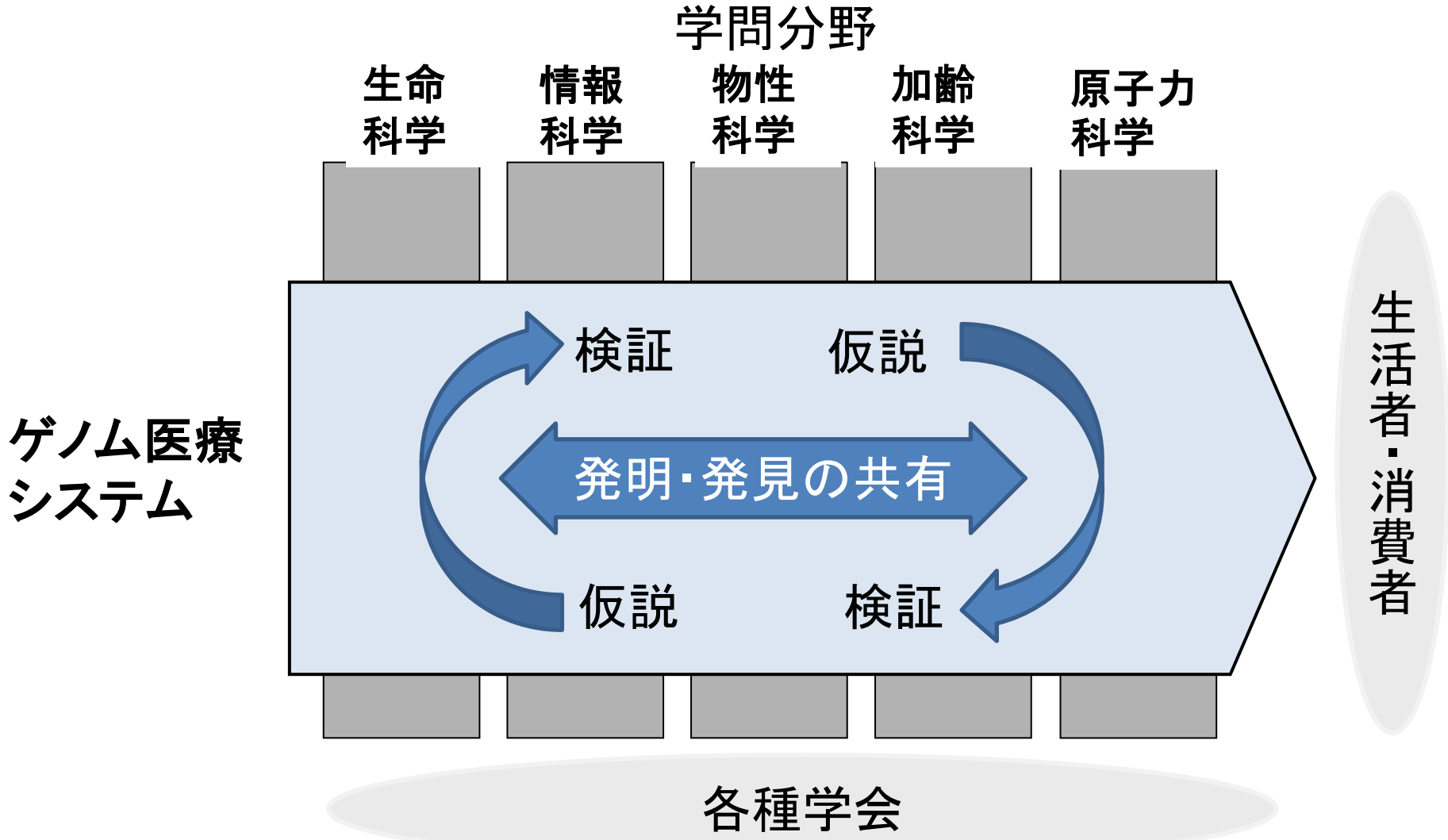


技術ロジックと社会の価値観を重視する「社会システム」の中で「医療システム」は価値観の比重が大きい

「社会システム」の存在する空間

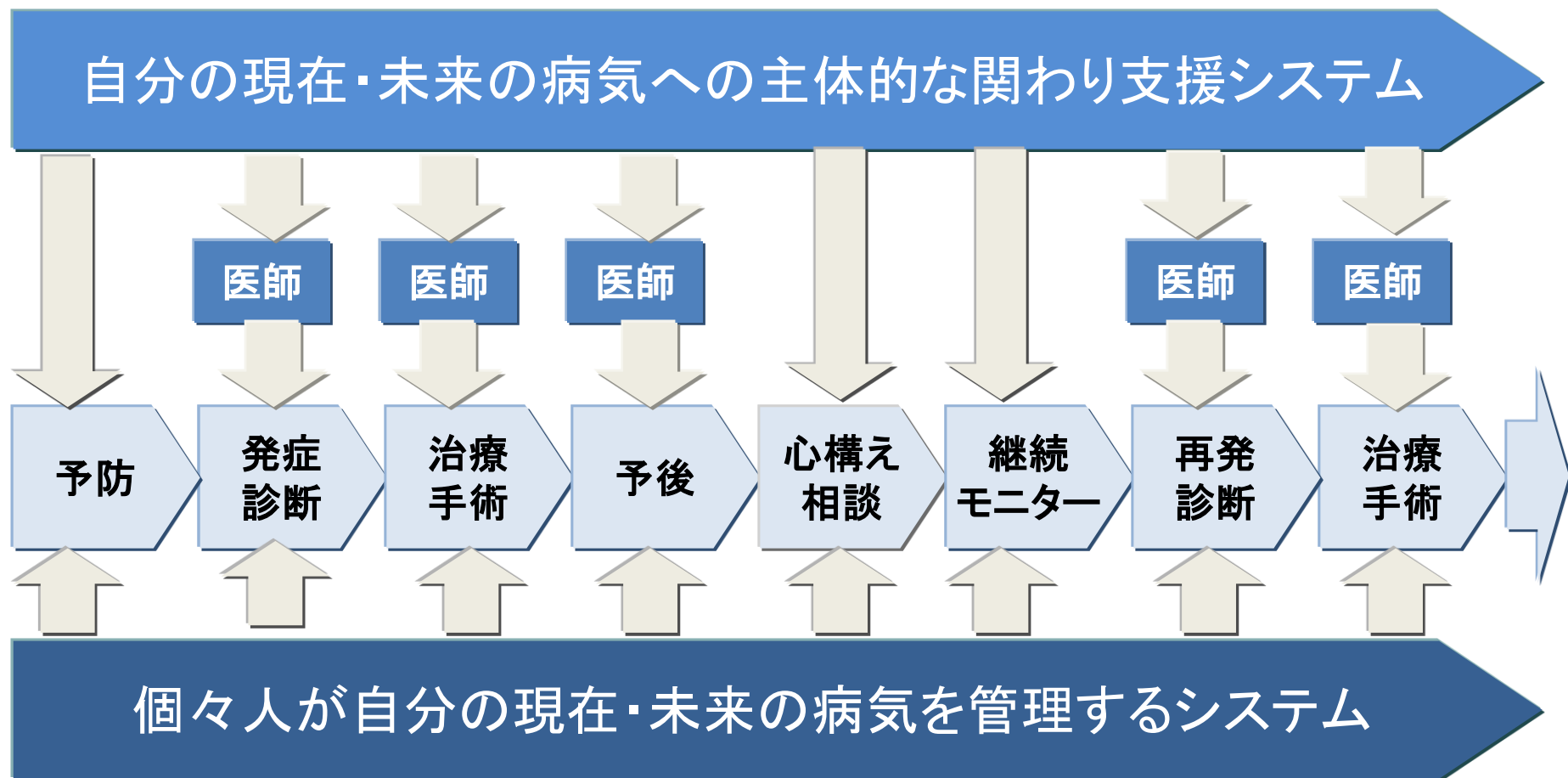


既存の学問分野を横串した発明・発見の共有と循環的議論を通じた展開を促す「ゲノム医療システム」



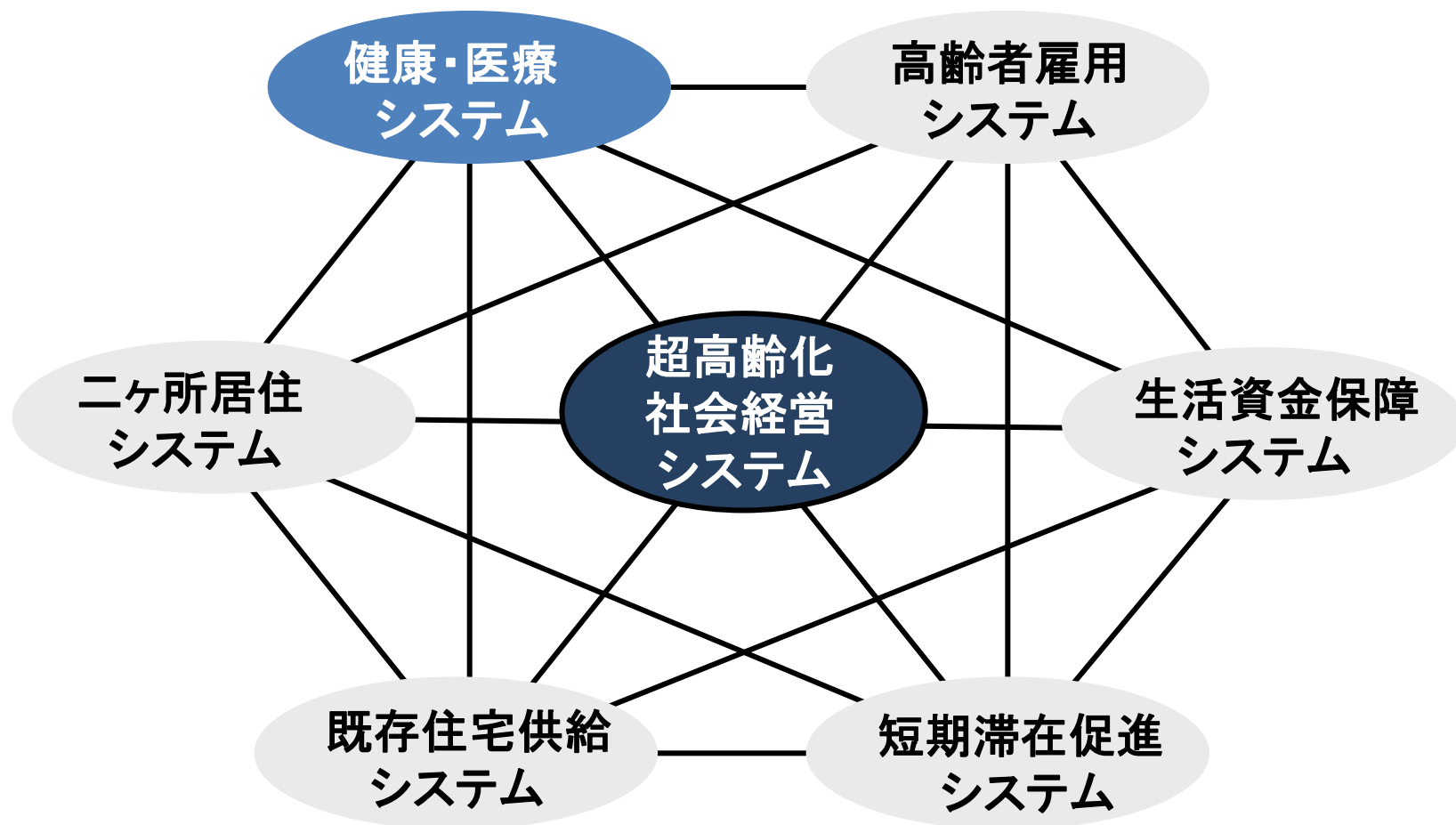
自分の現在・未来の病気を「管理するシステム」と呼応する「支援システム」がゲノム医療を支える

二つの医療サブシステムによる連携



「医療システム」は「超高齢化社会経営」の文脈の中で連携する「社会システム」群の一部として発想

「社会システム」の連携による超高齢化社会経営



「マスター社会システム・デザイナー」を創出、育成し 縦割り行政と対峙する形で首相官邸に配置する

